

# いよいよ発足！コミスクへの道のり

寺岡小中学校コミュニティ・スクール準備委員会  
代表 原田 真夫

「仙台市でも各学校でコミュニティ・スクールが導入されるので、打ち合わせをしませんか？」という呼びかけの元に有志が最初に集まったのが今年の9月でした。それから毎月1回のペースで集まりながら準備を進めてきましたが、発足に向けて、ようやく形が見えてきました。まだ発足前ではありますが、これから準備を始める皆さんの参考になればと1年間を振り返りながら「寺岡小中学校コミュニティ・スクール」への思いを記させていただきます。

最初に集まったときに皆が感じていたのは「???」です。寺岡小中学校区は学校支援地域本部や社会福祉協議会を中心に、地域・保護者と学校は既に密接に連携していました。新しい制度だけ導入しても意味あるの?という疑問は当然だったと思います。まずはその「???」を解消する事に時間をかけました。準備委員会のメンバーと学校が納得しないと形骸化してしまいます。昨年からの1年間という準備期間は、結果として良い時間だったと思います。

準備委員会のメンバーは個性的な方々が揃いましたが、少しずつ「???」を解消していけました。今年の12月に地域教育協議会の場を使い開催したワークショップでは、コミュニティ・スクールについての疑問点と期待する事というお題で話し合いました。準備委員会のメンバー以外の方々も入る事により、多様な意見が出て参考になりました。

学校側は地域以上に不安だったと思います。新しい仕組みが導入されて負担が増えるのではないかと人事について口出しされる?これらの不安解消のために、両校長とじっくりと話をしました。そして、今年の8月には寺岡小学校と寺岡中学校の先生方と準備委員会のメンバーでワーク

ショップを開催しました。「小中連携において必要な事」「どのような児童・生徒に育てて欲しいか?」というお題でしたが、事前に校内で先生向けの研修会が開かれていた事もあり、想定以上に前向きな意見が多く、発足が楽しみになったと同時に責任の大きさを実感しました。

「寺岡小中学校コミュニティ・スクール」の特徴としては、一小一中という地区でもあり、寺岡小学校と寺岡中学校で一つのコミュニティ・スクールとする事です。9年間という義務教育期間に一気通貫した教育目標を立てることにより、個々の児童・生徒も柔軟な学びができるようになるのではないのでしょうか。学校も小中連携がスムーズになり、先生同士の交流も活発化する事が期待されます。地域・保護者と学校の関係も、学校からの依頼という形を取っていたものが対等の立場で進めていく事になります。本音で話し合える環境ができ、今まで以上に活発な交流が行われると同時に、地域団体同士の横の連携も強化されるでしょう。

学校を核とした地域づくりという理念に則り、コミュニティ・スクールはスタートします。

委員も決まり、理想は高く前向きに進んでいきますが、最初から完璧に行う必要はないと思っています。問題にぶつかった際に話し合いをおこなって解決していく。この『熟議』の過程も学校と地域の関係づくりでは重要なのではないのでしょうか。

